



平成 29 年度第 4 回企画展

古文書に見る人々の暮らし 3

弘化 3 年の水害

宮代町郷土資料館

ごあいさつ

蔵や物置の片隅や、普段はめったに開けることのない筆筒のひきだしなどといった場所から、紙に墨やインクで文字などが書かれたものを見つけます。中には古びて埃をかぶっていたり、水濡れした跡があったり、ネズミなどにかじられていたりするものもあるかもしれません。

一見、ゴミのように見えるかもしれませんが、これらは「古文書」と呼ばれ、読み解いていくと地域やその家の歴史を知る上で重要なものが含まれていることが少なくありません。

郷土資料館では、住民の皆様のご好意とご協力を得ながら、こうした古文書などをはじめとする多くの史料を収集し、町の歴史を調べています。

今回の企画展は、「古文書に見る人々の暮らし3 弘化3年の水害」として、これまで寄贈・寄託などを受けながら収蔵してきた古文書の中から、弘化3年の水害をテーマに、どのような古文書が残されてきたのかを紹介する展示となります。この水害は江戸三大水害の一つといわれ、大きな被害があったことが伝わっていますが、町域においても被害を受けていた様子を古文書からうかがうことができます。

この展示を通じて、昔の人々の暮らしや史実などをより一層身近に感じていただくとともに、古文書に代表される「紙資料」の保存の重要性に改めて注目していただくきっかけとなれば幸甚です。

最後に、これらの貴重な資料をご提供くださいました皆様に厚く御礼申上げまして、ごあいさつとさせていただきます。

宮代町郷土資料館

～ 凡例 ～

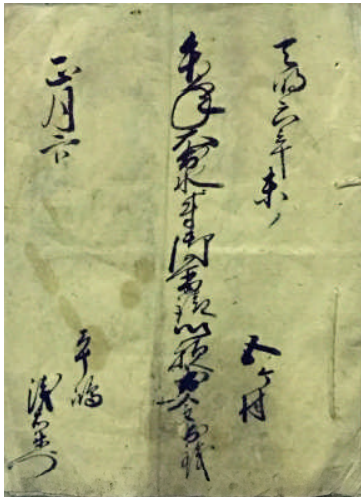
1. 本書は、平成30年3月17日（土）から5月6日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館平成29年度第4回企画展「古文書に見る人々の暮らし3 弘化3年の水害」の展示図録です。
2. 展示開催期間中に休館日は次の通りです。
3月19・22・26日、4月2・9・16・23日、5月1日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆執筆、写真撮影、デザイン、編集等は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。
4. 図録の構成は、展示構成とは異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 資料提供・協力者一覧（五十音順・敬称略）
新井隆夫・岩崎俊男・岩崎文庫・折原静佑・岡安邦彦・河井伸一

江戸時代 埼玉県域の水害

江戸時代以前の関東平野は、東半分は常陸川・鬼怒川ひたちがわ きぬがわの流域に、西半分は東京湾へと流れ込む利根川・渡良瀬川の流域となっていました。1500年代末から始められた大規模な河道付け替え工事や、明治時代に入ってから河道拡幅工事など水害から守るための改修を行ってきましたが、中流部での水害を防げるものではありませんでした。

江戸の三大水害というと、寛保2年(1742)、天明6年(1786)、弘化3年(1846)の洪水が知られていますが、記録に残る大洪水としては、1700年代以降の250年間に16回を数えるそうです。15年に一度の頻度で発生していることとなります。(2008 独立行政法人 防災科学技術研究所 自然災害情報室 HPより)

また「埼玉県史資料編13」では、近世の治水をテーマにして翻刻された史料が掲載されていますが、目次をみると上記の江戸三大水害のほかに、宝暦7年(1757)、明和3年(1766)、安政6年(1859)の洪水に関する史料が確認できます。これらの水害も、埼玉県域に大きな被害を与えました。

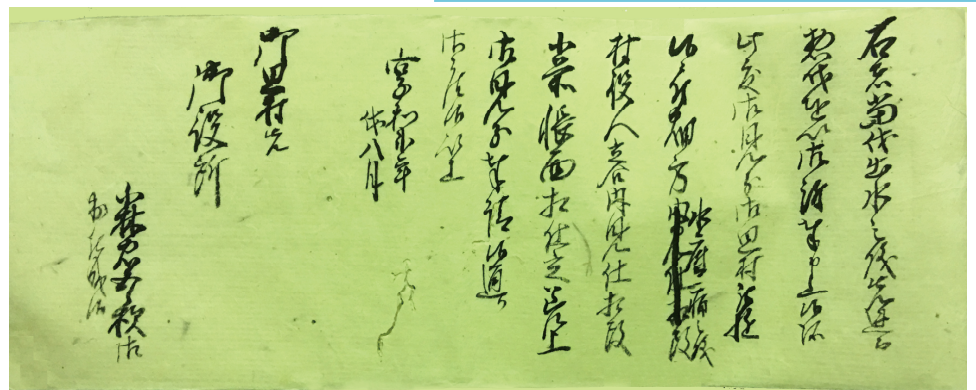


1. 午ノ年大出水ニ付御普請御願出金出銭

天明6年(1786)正月2日
新井家文書

3. 当出水ニ付田畑反別小前書上帳

享和2年(1802)8月
西条原村文書

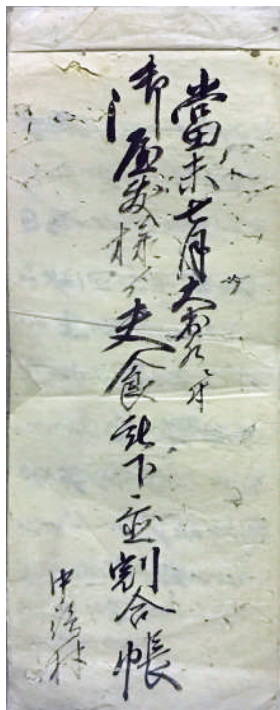


右者当戌出水之儀先達而惣代を以御訴奉申上候所此度御見分御廻村被遊候二付畑方水腐病之儀改村役人立合内見仕相改小前帳面相仕立差上御見分奉請候通り御座候以上
享和貳年
戌八月

御廻村先

御役所

小林忠五郎様御
出被成候



4. 当未七月大出水ニ付御屋敷様より夫食被下置割合帳

安政6年(1859)8月
岩崎家文書

年号	西暦	月	日	事象
慶長元	1596	6	23	19日から坂東・信濃・甲斐等で100年に1度と言われる大洪水。利根川(江戸川)が氾濫。
慶長7	1602	*	*	関東地方暴風洪水。
慶長9	1604	*	*	関東地方大風雨洪水。
慶長10	1605	*	*	関東地方大風雨洪水。
慶長11	1606	*	*	関東地方大雨洪水。
慶長13	1608	6	*	4月よりの長雨により、関東で洪水となる。
慶長17	1614	*	*	関東地方洪水。
元和3	1617	4	9	13日にかけて大風雨。利根川・入間川が洪水。日光社参の徳川秀忠従者が溺死。栗橋の舟橋が流出。
元和8	1622	*	*	関東地方洪水。
寛永4	1627	*	*	関東地方洪水。
寛永8	1631	*	*	利根川洪水により、上中条一帯浸水(熊谷市)・右岸稲子地先破堤(羽生市)・下利根破堤。
寛永14	1637	8	7	関東の大風雨により利根川・荒川が大洪水となる。9日、代官伊奈忠治が幕府に注進。
寛永15	1638	1	*	この頃、江戸周辺、100年に1度と言われる暴風で民家が多数倒壊。
寛永21	1644	*	*	関東地方洪水。
正保3	1646	*	*	関東地方洪水(堤防破損多し)。
万治2	1659	*	*	関東地方大風雨。利根川右岸善ヶ島～千貫堤破堤(妻沼町～、浅草浸水、両国橋流出)。
万治3	1660	5	*	5月この頃、連日大雨、諸国洪水。8月この頃、大風雨で関東・奥州が洪水となる。この頃、大風雨で関東・奥州が洪水となる。
寛文6	1666	5	*	この頃、台風で関東一帯に被害。江戸の両国橋が流失。
延宝4	1676	*	*	関東地方洪水。
延宝6	1678	*	*	利根川洪水。
延宝7	1679	*	*	利根川洪水。
延宝8	1680	*	*	関東地方暴風雨。
元禄12	1699	*	*	関東地方大風雨。
宝永元	1704	8	4	利根川・中川・荒川が氾濫し大洪水となる。利根川・荒川が洪水のため、利根川上川俣(行田市)・権現堂付近(幸手市)・古利根川猿俣破堤(葛飾区:八潮・三郷境)・下利根川が破堤し、葛西から向島・本所・深川・下谷方面浸水。江戸及び近国洪水。田畑大損、死者多し。
宝永4	1707	11	20	富士山が噴火、須走り口が焼ける。天暗く雷鳴・地震が夥しく、稲光りあり。関東に降灰、雪の如く積もる。白昼暗夜の如し(宝永噴火)。
正徳2	1712	*	*	利根川洪水。
正徳5	1715	*	*	江戸川洪水。
享保2	1717	*	*	関東地方大風雨、諸川洪水。
享保5	1720	*	*	利根川・荒川などで出水。
享保8	1723	*	*	利根川・荒川などで出水。利根川上中条村荒宿堤越水(熊谷市)、善ヶ島破堤(妻沼町)、渡良瀬川西岡堤破堤(板倉町)、関宿で4～500人溺死。
享保12	1727	*	*	見沼代用水着工(翌年完成)。7月21日利根川・荒川などで出水。
享保13	1728	*	*	江戸川開削(金杉～深井新田間)、埼玉管内の諸沼の開発。8月東国・西国とも各地で洪水。9月2日江戸と関東各地で大洪水。両国橋外が流出、死傷者が3千五百人に達する。
享保14	1729	*	*	古利根川の綾瀬川合流より下流で、細流に沿って新川開削(中川の名前の登場)。
享保16	1731	*	*	利根川・荒川などで出水。

年号	西暦	月	日	事象
享保17	1732	9	*	享保の大飢饉。
享保19	1734	*	*	この年、夏より秋にかけて諸国とも洪水に見舞われる。
元文元	1736	*	*	利根川・荒川などで出水。
元文3	1738	6	*	4月中旬より雨が降り、6月中旬まで洪水となる。関東地方、大凶作。
寛保2	1742	8	1	利根川・荒川水系が大氾濫、3日に権現堂堤(幸手市)が決壊。
寛保2	1742	*	*	利根川・荒川大洪水:上利根川(永楽村舞木600間破堤、同村赤岩100間破堤)、北河原200間破堤(行田市)、佐貫村大輪破堤(鷲宮町)、新川通・中渡各1箇所破堤(大利根町)、旗井村内3箇所(大利根町・栗橋町境)、古利根川堤琴寄で破堤(大利根町・栗橋町境)、関宿城大破、下利根川筋破堤、綾瀬川小谷野付近で破堤?、隅田川寺島破堤、毛利藩が石灯籠を竣工記念に工事概要を刻んだ「刀禰上流以南修治告成碑」を鷲宮神社に奉納:浸水範囲は千住・向島・深川・葛西・浅草・下谷・尾久・三河島に及ぶ(江戸時代最大規模の洪水といわれる)。江戸川・古利根川下流では8月5日に最高水位に達し、7~8尺(約2m)から20余尺(約6m)にも及んだところがあるという。荒川上流部の野下郷(長瀬町)では現河床から24mのところ「水」と刻まれている(寛保洪水位磨崖標)。荒川久下石原破堤(荒川・石原・久下他多くで破堤)。
寛延2	1749	*	*	利根川・荒川洪水。
寛延3	1750	4	13	夜大風雨で古利根川・江戸川とも満水。堤が決壊し、田方水没。
宝暦元	1751	*	*	洪水のため、権現堂堤破堤。
宝暦5	1755	*	*	関東一円で水害になる。
宝暦7	1757	*	*	秋頃、利根川大洪水のため被害大。古河・関宿大水。権現堂川決壊。
宝暦10	1760	*	*	綾瀬川や利根川などで出水騒ぎがおこる。
明和3	1766	*	*	この年、6月から8月にかけて6度の大風雨、利根川満水決壊。
安永元	1772	8	2	2日関東大風雨となり、権現堂川決壊。江戸・本所・深川が大水、永代橋が破損。8月2日の大風雨と合わせて伊奈氏支配下の民家4000軒が被害。
安永9	1780	6	*	毎日時雨降り続き、気候が冬のよう。26日より江戸川洪水。6月中出水にて大膳村(三郷市)の大場川掛け樋・土橋大破。利根川洪水で幸手領上吉場村(幸手市)の権現堂堤150間が切れ、民家10軒余が流出。
天明3	1783	7	*	7月6日浅間山噴火。8日浅間山が大噴火。火砕流が川を堰き止め鉄砲水を誘発、人馬の死体・倒壊家屋が利根川・江戸川に漂着。河川の川床が土砂で埋まる。江戸川・古利根川とも出水。関東一帯に降灰。死者2万人と言われる。
天明3	1783	7	*	この頃、東日本で未曾有の飢饉、餓死者が膨大な数にのぼり、各地で打ち壊しが起こる(天明飢饉)。
天明6	1786	7	17	関東で幕府開設以来最大の洪水。被害は寛保2年の10倍と言われる。
寛政6	1794	*	*	関東河川修理手伝普請命ず。
享和2	1802	7	*	2日権現堂堤破堤150間61戸流失、中川破堤、江戸川溢水、中条堤越水、渡良瀬川広沢(桐生市)破堤、その他破堤多し。荒川は最高水位を久下などで破堤。
文化5	1808	7	25	7月~9月江戸近国および東北諸国洪水。
文化13	1816	閏8	3	3日、4日大風雨が人家を損壊し樹木を倒す。江戸市中其の外で出水。
天保4	1833	8	1	関東に大風雨。
天保5	1834	8	6	大旱魃、60日間に及んで大雨が降る。
天保6	1835	*	*	洪水(利根川筋本郷・合の川筋柳生・渡良瀬川筋柏戸7ヶ所(北川辺町)・渡良瀬川筋離(板倉町)破堤)。
弘化元	1844	*	*	利根川洪水、権現堂堤切れ江戸浸水。
弘化3	1846	6	21	江戸川から庄内古川への逆流で上笹塚村の新堤が決壊。松伏領・二郷半領は床上7尺も水が上がり8月まで水が引かず。「丙午の厄災」と呼ばれる前代未聞の大水害となる。
弘化3	1846	6	28	旧利根川・中川の堤防が決壊し洪水となり、小塚原の地蔵尊は肩より上のみが現れる。
安政元	1854	11	4	東海道等、地震・津波による倒壊・流出家屋が8千3百戸、死者1万人余に及ぶ(安政東海地震)。
安政2	1855	10	2	大地震のため潰れ家多数。江戸大地震、余震はこの月80回・死者7千人・倒壊家屋1万4千戸の被害。二郷半領加用水路の庄内古川の伏越樋・吉川村御園穀納屋・領内民家の多数に被害。地震による潰れ家に対して金三分宛下される。
安政5	1858	7	*	古利根川・中川・荒川が氾濫。25日大嵐。同27日西川堤吹上で300間ほど押し切れ、古利根川に吐き出し、古利根川が満水となり、戸ヶ崎村(三郷市)の下猿ヶ又村(三郷市)門樋押し抜け水入りとなる。上領々8か領水難となる。

町域に残る水害関係史料

水害に関係する古文書を見つけるためには、「大水」「出水」「水難」「切所」「湛水」「水損」「水腐」などといった文字がキーワードとなります。表紙にこれらのキーワードを見つけることができれば、古文書の中身が水害に関係しているものであると推察しやすいのですが、例えば、「乍恐以書付奉願上候」などのような書き出しからだけでは何を願い出たものなのかわかりませんので、本文の中にキーワードがないかを見ていく必要が出てきます。調べていくと、前述した埼玉県域での水害に挙げたものの中で、寛保2年（1742）の水害以外については、関係する古文書を見つけることができるようです。

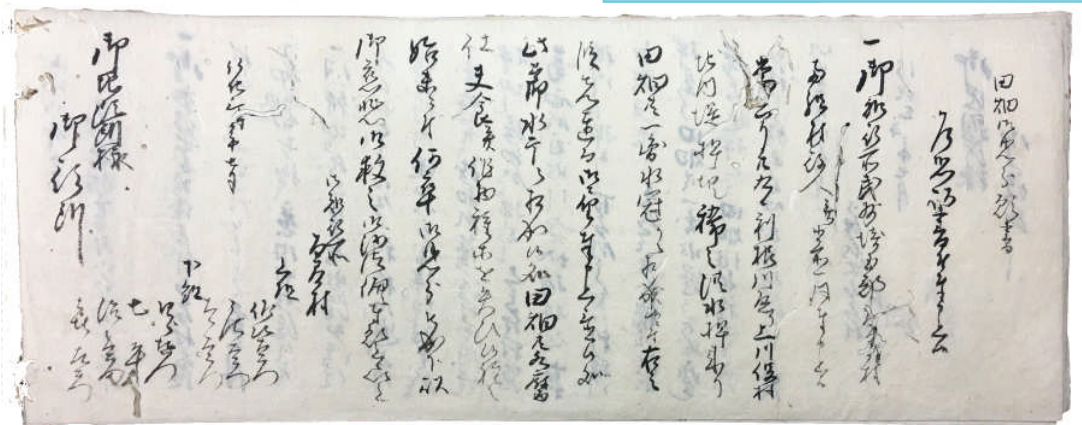
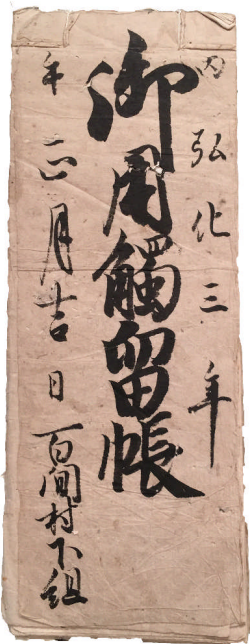
今回の展示テーマである「弘化3年の水害」に関する古文書を探すのは、上記のキーワードの他に年号である「弘化3年」（と翌4年）や、干支である「午年」（と未年）もキーワードにして検索しました。表題から見つけることができたもの、内容を確認したものなど、あわせて19点の古文書をご紹介します。

5. 御用触留帳

弘化3年（1846）正月
新井家文書

9. 田畑水腐二付御出役賄入用取調帳

弘化3年（1846）7月
岩崎家文書



田畑御見分願書
乍恐以書付奉申上候
一 御知行所武州埼玉郡百間村
両組村役人并小前一同奉申上候
当六月廿九日利根川通り上川俣村
地内堤押切レ稀之洪水押来リ
田畑共一圓水冠リ二相成候二付右之
段先達而御届奉申上置候処
此節水干二相成候処田畑共水腐
仕夫食并作物種等を失ひ候程之
始末二付何卒御見分被成下以
御慈悲御救之御沙汰偏二奉願上候以上

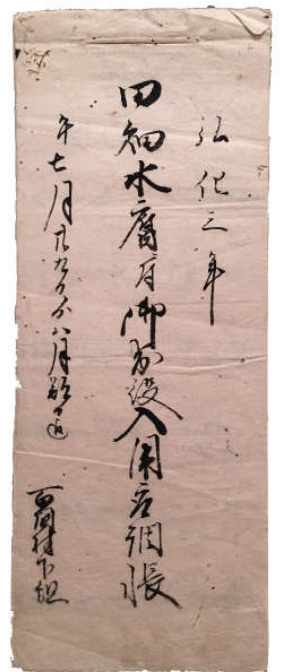
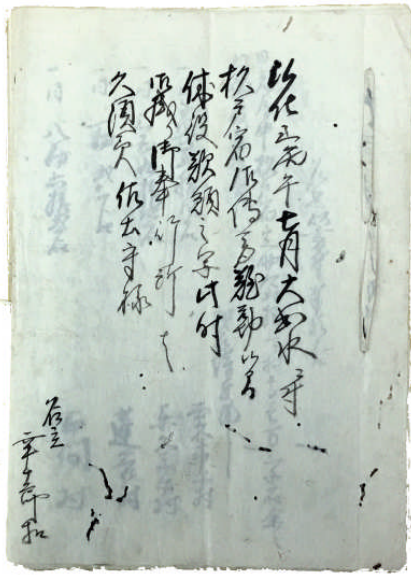
御知行所
百間村
上組
下組

弘化三年七月
佐次右工門
庄右工門
太右工門

御地頭所様
御役所

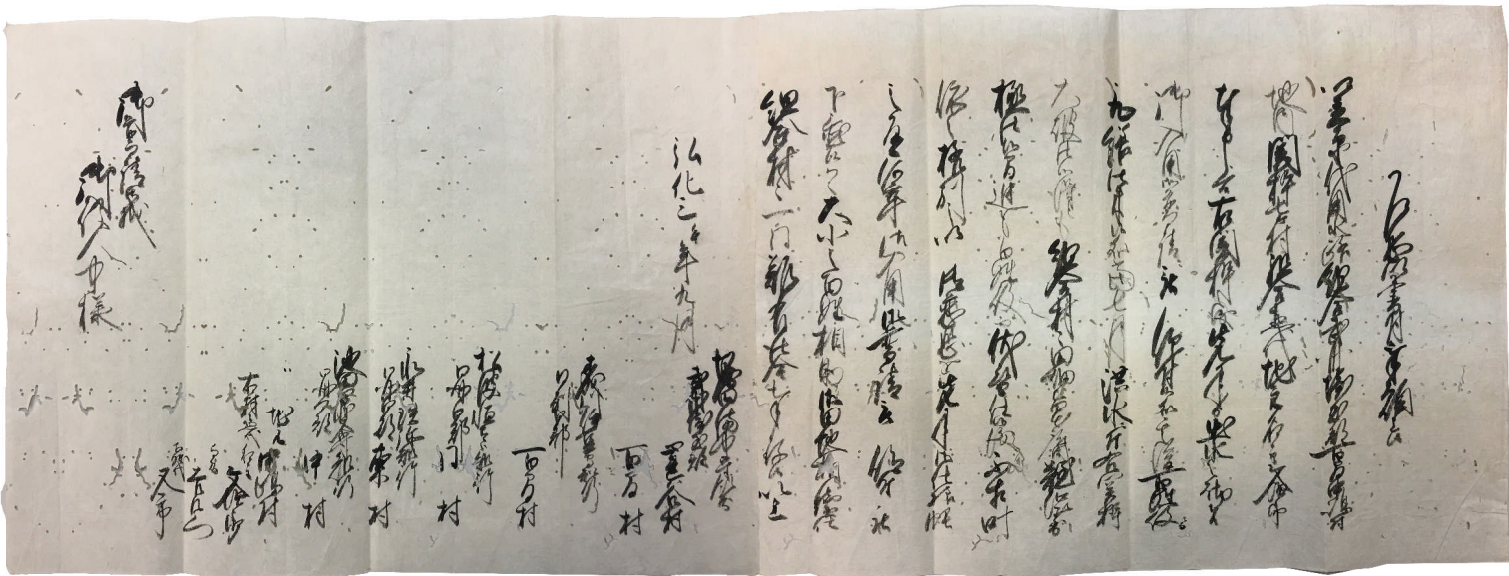
七平
治右工門
喜左工門
四郎左工門

8. 弘化三年丙午七月大出水二付
 杉戸宿御伝馬難勤候間休役歎願之写
 弘化3年(1846)7月29日
 岡安家文書



10. 田畑水腐二付御出役入用取調帳
 弘化3年(1846)7月29日
 新井家文書

13. 笠原用水路御入用御普請願書
 弘化3年(1846)9月
 新井家文書



乍恐以書付奉願上候
 笠原代用水路組合武州埼玉郡百間中嶋村
 地内関梓七ヶ村組合惣代地元名主文治郎
 奉申上候右関梓之儀先年より出水之砌者
 御入用御普請二被 仰付候処其後百姓役二而
 取繕仕来候処当七月洪水二付右関梓
 大破仕候得とも組合村々田畑皆水腐難浸至
 極仕候間迎も百姓役二而伏替仕候儀不相叶
 依之格別之以 御慈悲を先年御仕様帳
 之通何卒御入用御普請被 仰付被
 下置候ハ、大小之百姓相助御田地相続仕
 組合村々一同難有仕合奉存候以上

堀田備中守領分
 武州埼玉郡
 蓮谷村
 百間村
 森川伊豆守知行
 同州同郡
 百間村
 松波恒太郎知行
 同州同郡
 同村
 永井鉄弥知行
 同州同郡
 東村
 池田甲斐守知行
 同州同郡
 中村
 女
 地元 中嶋村
 右村惣代名主
 文次郎
 与頭
 吉左工門
 百姓代
 又市

御普請御掛
 御役人中様



19. 水防修繕明俵代並諸入用払方覚帳

弘化3年(1846)11月

新井家文書



22. 馬飼料拝借証文(雛形)

弘化4年(1847)正月

岩崎家文書

展示品リスト

	文書群名	文書番号	表題	年代
1	新井隆夫家文書	No.0316	午ノ年大出水ニ付御普請御願出金出銭	天明 6年正月2日(1786)
2	西条原村文書	No.0031	大水ニ付畑半年貢 杉戸地畑小作帳	享和 2年11月 日(1802)
3	西条原村文書	No.0032	當出水ニ付田畑反別小前書上帳	享和 2年8月 日(1802)
4	岩崎俊男家文書	No.2763	當未七月大出水ニ付御屋敷様より夫食被下置割合帳	安政 6年9月 日(1859)
5	新井隆夫家文書	No.0386	御用触留帳	弘化 3年 月 日(1846)
6	新井隆夫家文書	No.2833	乍恐以書付御届ヶ奉申上候	弘化 3年7月 日(1846)
7	新井隆夫家文書	No.2832	乍恐以書付御届ヶ奉申上候	弘化 3年7月 日(1846)
8	岡安邦彦家文書	No.0624	弘化三丙午七月大出水ニ付 杉戸宿御傳馬難勤候間休役歎願之写	弘化 3年7月28日(1846)
9	新井隆夫家文書	No.2472	田畑水腐ニ付御出役賄入用取調帳	弘化 3年7月29日(1846)
10	新井隆夫家文書	No.2400	田畑水腐ニ付御出役入用取調帳	弘化 3年7月29日(1846)
11	新井隆夫家文書	No.3492	當午出水ニ付畑方御検見内見帳	弘化 3年8月 日(1846)
12	新井隆夫家文書	No.0315	當午出水ニ付反永取書上帳	弘化 3年9月 日(1846)
13	岩崎俊男家文書	No.2221	乍恐以書付奉願上候(御入用御普請被仰付度)	弘化 3年9月 日(1846)
14	岩崎俊男家文書	No.0695	乍恐以書付奉願上候(御入用御普請被仰付度)	弘化 3年9月 日(1846)
15	百間西原組文書	No.0046	御請書之事(田畑水冠ニ付秋成金御用捨之儀)	弘化 3年9月 日(1846)
16	岩崎俊男家文書	No.1287	午御年貢可納割附之事	弘化 3年10月 日(1846)
17	岩崎俊男家文書	No.1288	午御年貢皆済目録	弘化 4年正月 日(1847)
18	岡安邦彦家文書	No.0219	為取替申合之事	弘化 3年10月 日(1846)
19	新井隆夫家文書	No.2475	水防修繕明俵代並諸入用払方覚帳	弘化 3年11月 日(1846)
20	新井隆夫家文書	No.3754	午ノ水難ニ付 御種拝借當未より西迄三ヶ年賦御上納割合	午年 月 日()
21	新井隆夫家文書	No.2482	出水ニ付内耕地御普請目論見御出役賄入用帳	弘化 4年正月 日(1847)
22	岩崎俊男家文書	No.0954	差上申拝借証文之事(案文)	弘化 4年正月 日(1847)
23	折原静佑家文書	No.0957	差上申御請書之事(五ヶ年定免に付)	弘化 4年9月 日(1847)